
テンシとみちる

海泉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テンシとみちる

【Nコード】

N5122P

【作者名】

海泉

【あらすじ】

とある天使が、現代の人間を浄化するために降りてきた。

使命感のみをもつ彼女は、ためらいなく人間を変えていく……

降臨（前書き）

初投稿。小説の書き方を練習しています。

拙い作品ですが、暖かい目で見てください。

降臨

ひらひらと、白い羽根が地に落ちる。

神様から命令を下された天使が、地上へ降りてきたのだ。

本当は神様にも天使にも、きまった姿や形というものは無いのだが、

ここでは天使はヒトの形になった。適当に、線が細くて色白な若い女性の姿をとった。服装は白いブラウスに黒いパンツ。

こんなものでいいだろう。自分に当てられたこの街で、早速仕事を始めよう。そう天使が思ったとき、甲高い悲鳴が聞こえた。

天使は改めて自分が降りてきた場所を見回す。小さな子でも遊べる低い鉄棒、ブランコや滑り台などが配置されていて、天使は滑り台の

すぐ下の砂場の傍らに立っていた。他にも、この公園の入り口や、隣の

白い建物の裏口が近くにあった。さっきの悲鳴はこの白い建物からだ。

とその時不意に、その裏口のドアが勢いよく開け放たれ、中から顔を

目出し帽で隠した複数の人間が急いだ様子で出てきた。

なぜか1人、目出し帽の人間達とは体^{てい}の違う小柄な女性が

混じっており、目出し帽の内の1人に腕を掴まれ、強引に引つ張られる

ようにして歩いていた。彼女は淡い桃色のベストの上に、銀行の職員

であることを証明する名札をつけていた。

その女性は1人だけポツンと公園につっ立っている天使に泣き出しそう

な瞳を向けながら、首を横に振って何かを訴えている。口をガムテープ

で塞がれているため声を出せないが、「そこにいてはだめ」と、必死に

伝えようとしていた。

だが女性の懸念通り、黒いトランクを持った目出し帽の1人が、懷から

拳銃を取り出して天使へ向け

「騒ぐなよ、声上げたら撃つ」

低い声で言った。

しかし天使は動じない。元々、恐怖という感情が天使には無いからだ。

無表情のままの天使が、唐突な状況をよく呑み込めなかったと判断した

目出し帽の人間達は、黙って拳銃を向けている人物を最後にするように

して、そのまま速やかに逃走しようとした。

が、かまわず天使は自分の役目を全うする。天使を中心に青白い光が

公園中を駆け巡り、その場にいた全員をひるませた。

そして天使は、この者達の心を測る。たとえ顔を隠しても、体型が分かりづらくても、天使には全て分かる。人質だと思われる女性を除いて、目出し帽は4人。今拳銃を向けてきている男は、このままで

いい。黒いトランクを持った男は洗淨。後ろの女も洗淨。人質の

腕を

掴んでいるリーダー格らしい男は、ギリギリだが洗淨。

四捨五入のような要領で、心の潔白さを測りおえた天使は、そつと前

を押すように手をかざし、ゴルフボールくらいの大きさの白く発光する

球体を、洗淨する3人の頭上に出現させる。と同時に、かざした腕を

そのまま横に振る。球体は音も無く、3人の体をすり抜けるようにして

その中へ入っていった。これで洗淨完了だ。

パトカーのサイレンが聞こえてきた。どんどんこちらへ近づいてきて

いる。洗淨が済んだ3人は、先ほどまでのピリピリした気配が消え、

ただ宙を見つめたまま呆けていた。唯一、天使が洗淨をしなかった

拳銃を構えた男だけは、先ほどの青白い光で仲間達がひるんだと思

こみ

「おい、さつさと人質連れて行くぞ！」

しかし意外な返事がきた。

「自首しなくては。罪のない人々にとんだ迷惑をかけてしまった。

申し訳ない……………」

「償おう。これは、自分で稼いだお金じゃない……………」

拳銃の男は面食らうが、今はそれどころではない。

「何を今更！途中でやめるぐらいなら、こんな事してなかっただろ！」

なあ、どうしんだんだよ一体！？」

「あなたこそ、みつともないわ。悪いのは私たち。…………ふふふ。

今ね、なんだかとても嬉しいの。心の中に、前向きな気持ちしか

ない。まるで本当に、洗われたようなカンジ！」

目出し帽のせいで表情こそ見えないが、女の口調は本当に晴れ晴れと

していて、幸せをかみ締めているかの様だった。

拳銃の男は意味不明すぎて今度こそ呆然とした。ふらつと倒れそ
うに

なったりさえした。一体何が起こったというのか。奪った金の入
った

トランクを地面に置き、人質に謝罪まで始めてしまった仲間達を
置いて

逃げてしまおうかと思い、ふと気付く。

そもそも今、何かあったか？

自分はどうして拳銃なんか取り出している？

というか、この公園に自分達の他に、誰かがいた気がする。

でも……やっぱりいなかったか？

仕事はたくさんある。天使は街の中を歩きながら、人間の集まり
やすい

場所を探す。さっきのように少人数ずつ洗淨をしていくと、時間
がかかる。

天使が神様から与えられた命令は1つ。人間達の心の正負のバラ

ンス

を見て、負が強ければその人間の心を洗え。

これは神様も初めてする、究極の試みだ。

負の感情を持つ人間が増えたせいで、汚れと疲れを繰り返しまわるようになってしまうた世界を見兼ねて、少しテコ入れをしようという

のだ。全てをリセットしてしまったら、また創めから今までの繰り返し

になってしまう。だから、苦いコーヒーに少しずつ砂糖を足して甘く

する様に、人間の心も正しくなるようにした。

一度洗淨された人間の心には、怒り、悲しみ、悔しさ、憎しみ、妬み

などのあらゆる負の感情が生まれなくなる。こうすれば、争いは減り、

平等で平和な世界がまわるようになるだろうと神様は考えたのだ。

今は、神様が考えた計画の本当に初期の段階であり、地上に降りている

天使は自分も含めて2桁もない。骨が折れそうでも、神様の命令は

絶対である。

ふと天使は足を止めた。ここは人の行き交う大きな交差点だった。

立ち並ぶビルの隙間からのぞく太陽の光と熱が、行き交う人々に平等に

降り注ぎ、時折道路特有の排気ガスの臭いが鼻に突き刺さる。

しかし、天使はそんな不快なものではなく、別のことに気をとられて

いた。その瞳は、1人の少年に釘付けになっている。10歳前後くらい

の、少し髪に手を加えている少年だった。その少年の心の波長に、天使

は言い知れぬ好感を抱いた。喜びとか、単純なものではない。鼓動が

高鳴り、息苦しささえ覚えるというのに、なぜかずっとそのままですごくいたくなる。

天使はその少年と横断歩道をはさんで向かい合っていたが、少年

の方は

天使に気付いていない。この少年に声をかけたい。しかし天使は思い

直して、すぐにきびすを返した。

人気がないところまで来ると、音も無く自分の頭上から白い羽根を雪の

様に降らせた。羽根は天使を足元から包んでいく様に積もってゆき、

やがて天使の姿が完全に隠れると、内側から弾けとぶ様にして散った。

中にいた天使は、線の細い女性から愛くるしい顔をもつ少女へと姿を

変えていた。

まだ彼女の周りには、いくつかの白い羽根がひらひらと舞っていた。

降臨（後書き）

あと2 3話で完結します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5122p/>

テンシとみちる

2010年12月15日18時21分発行